志村坂下小だより

１１月号　令和５年１０月３１日
http://www.ita.jp/edu/sakaes/　　東京都板橋区立志村坂下小学校
「FLC学びのエリア」（fight・learn・clean）「志四中」「坂下小」「緑小」「志村小」「北前野小」　　校長　松野　薫子
目指す児童・生徒像＝「よく考え進んで学ぶ子ども」「心豊かで思いやりのある子ども」「ねばり強くたくましい子ども」

オール坂下で育つ学びの力

副校長　　船橋　伸弘

急に涼しくなったせいか、インフルエンザ等で体調を崩す子も多くなりました。寒暖差も大きく、服装の調節が難しい季節だなと思います。無理せずに、朝の健康観察を十分にしていただくよう、お願いします。

今月も「みどりんサポーターズ」に６年生の家庭科のミシン実習のお手伝いをお願いしました。２日間でしたが、非常に助かりました。

また、４年生の総合的な学習の時間で、「車いす体験」の授業を行いました。ボランティアセンターから車いすの貸出予約をとったものの、学校まで運ぶ手段に困りました。地域の方に相談したところ、快く運搬を引き受けてくださいました。

ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

４年ぶりに「坂下まつり」が開かれました。

平日にもかかわらずのべ 300 人もの保護者・地域の方が参観されました。子供たちの「楽しいから、絶対に見に来てね！」の声に誘われたのでしょうか。本当に、ありがとうございました。

「坂下まつり」とは、２年生から６年生が学級毎にお店（アトラクション）を企画し、全校児童が半分ずつに分かれてそれぞれのお店を回ります。坂下小版の学園祭のようなものです。

３年間実施をしていなかったので、前回を体験しているのは５年生以上です。それでも、各学級で話し合い、様々な企画が生まれました。

坂下小の子供たちの凄いところは、一人のアイディアで終わらないこと。友達と話し合い、よりよいものを生み出す力があります。そして何より「自分たちが楽しもう」とする力があります。これは間違いなく、普段の授業の中で育てられたものだと思います。

本校の「志村坂下小スタンダード」による、学習リーダーが進める授業の流れは「ひとり学び」で終わらず「交流」の時間があり、自分の考えを相手に伝える力、相手の考えを理解する力を育てています。教科を問わず、集団としての学びが坂下小にはあります。

さて、今年度 4 月に6年生が実施した全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。

〇令和５年度「全国学力・学習状況調査」結果

平均正答率 ％	国語	算数
志村坂下小	７２	６３
板橋区	６９	６６
東京都	６９	６７
全国	６７．２	６２．５

どちらの教科も、正答率は全国に比べ高かったです。特に国語は５ポイント近く差がありました。

国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全てで、全国の平均正答率を上回り、たいへんよくできていました。

また、朝のモジュール学習で漢字学習の時間を確保した成果が、今回の調査に表れました。

苦手としている児童がどの程度いるかがわかる「無回答率」が高かった問いは、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ものと「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる」ものと「敬語」についてでした。

今後の対策としては、授業の中で引き続き「思考の過程や自分の考えを表現する活動」を取り組むことで、苦手な児童を減らすことを考えています。

算数では、国語ほどの開きはみられませんでしたが、ほぼ全ての領域で全国を上回っていました。唯一、「データの活用」の領域が 0.3 ポイント全国を下回っていました。

「無回答率」が高かったのは、「二つのグラフから見いだした違いを記述する」と「二次元の表から、条件に合う数を読み取る」問題でした。資料を読み取るだけでなく、活用することができるように、他の教科でも意識をして育てていきます。

本校が５年前から取り入れている「志村坂下小スタンダード」の毎時間の積み重ねで、自分の考えを書いたり、発表したりする力も伸びてきています。ここに家庭学習でのひとり学びが加わることで、さらに学びの力は向上すると考えます。

本校の「学びに向かう力」は、教員・保護者・地域（オール坂下）の協力で育てられています。